

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

基本目標2 北上との縁やつながり、地域資源を活かしひとの交流を生み出す「まち」を創る

1 基本的方向及び数値目標の実績

基本的方向	数値目標	指標の説明	単位	基準値						実績値			目標値	達成状況
				H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02				
本市の転入数はピーク時の年間約4千人から3千人まで減少し、転出超過となる年が発生しており、これからは本市に居住する人の転出を抑制する取組みと本市への転入を促進する取組みの両輪により、移住・定住促進につなげていくことが必要である。 そこで、住民に対する地元への愛着と誇りを醸成する取組みに加え、北上市への移住・定住を潜在的に希望している人たちに向け、「北上市を知ってもらう」「北上市へ来てもらう」「北上市の魅力を感じてもらう」など本市の認知度向上を足掛かりとし、豊かな地域資源を活用した交流人口の拡大、地元愛着による転出者のUターン促進など、本市への新しい「ひと」の流れづくりに取り組む。	転入超過人数	住民基本台帳上の転入超過人数の5年間累計値	人	865 (H22 ～26)	770 (H23 ～27)	267 (H24 ～28)	▲124 (H25 ～29)	171 (H26 ～30)	623 (H27 -R1)	1,063 (H28 ～32)	D			

2 基本目標の総括及び今後の方向性

基本目標の総括(指標の達成状況や取組状況等)
○数値目標の達成状況を見ると、転入超過人数は目標値に対して令和元年度末時点までの5か年で440人の減少となっているが、令和元年度においては537人の転入超過となった。
○女性を中心としたUターンを取り組みとして、インターンシップ費用の助成制度や介護人材を確保するための補助金事業を実施した。
○地域資源を掘り起し、魅力を育て、心に残る情報発信で伝えることにより、シビックプライド(地域への愛着と誇り)を醸成し、都市ブランドを確立していくことが必要となっている。

今後の方向性
○移住・定住施策に関しては、国の助成事業等、活用できる事業の情報提供を積極的にを行い、さまざまな実施主体が地域資源を生かした取り組みができるよう支援していく。
○H27年度国勢調査によると、当市の人口は微増しているものの、女性の生産年齢人口がH22年と比較し減少しており、当該人口の流入・定着がより一層必要となることから、仙台圏や首都圏からの若者のUターンを支援する取組みを進めていく。
○都市ブランド推進行動計画に沿って、統一感を持った情報発信を推進し、内外からの良好なまちのイメージ確立とシビックプライド醸成に繋げる。 広報紙やホームページ、フェイスブック等各種広報媒体により北上市を知ってもらい、関心を持ってもらえる情報を発信する。 市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイル(働き方・暮らし方・いきがい)を自律的にデザインし、発信する動きを数多く紹介し、さらなる未来の暮らし方デザインに繋がる動きを活性化させる。

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

■各施策の進捗状況

施策1	地域の魅力を活かした移住・定住の促進
------------	--------------------

計画の内容	重要業績評価指標	指標の説明	単位	基準値						実績値	目標値	達成状況
				H26	H27	H28	H29	H30	H31			
ゆとりや安らぎのライフスタイルをおくれる環境や伝統文化、人々の絆などそれぞれの特性を活かした交流人口の拡大を図り、地域資源の発掘による商品化・高付加価値化によるコミュニティビジネスの創出など地域が持つ潜在的な力を魅力に変えることで、個性豊かで「ひと」を惹きつける住み続けたいまちをつくる。	定住化促進事業の取組地域数	定住化促進事業に取り組む人口減少地域の数	地域	4	3	5	4	3	4	7	D	
	地域おこし協力隊の定住率	地域おこし協力隊採用後、当市にそのまま定住した割合	%	—	—	—	—	0	83.3%	100	C	

現状・課題等
<p>○あじさい都市の実現に向けて、それぞれの地域が一定の人口を維持し、コミュニティを構成する必要がある。</p> <p>○展勝地周辺を中心とした観光資源の活用・連携や夏油高原の魅力構築が十分でなく、情報発信も弱い。</p>

今後の方向性
<p>○人口減少が進んでいる地区のまち育てを支援するとともに、課題解決や地域の誇りの醸成と魅力発信によって関係人口の増加を図る。</p> <p>○展勝地開園100周年への機運醸成に併せ、地域や関係団体との連携による民俗村の活用推進と国見山廃寺との連携強化を図るとともに、夏油高原スキー場と温泉郷組合を中心として地域とも一体となった夏油高原地域の活性化を図る。</p>

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

■施策に紐づく事業の取り組み内容(予算が伴う事務事業を抜粋)

◆地域力を活かした移住・定住の促進◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 [計画期間内での新規事業は計画概要]	達成状況の分析・問題点・課題 等	今後の 方向性
1	古民家活用夏油高原誘客事業	順調	古民家を再生し活用して、古民家カフェ兼観光案内所の立上げや独自のイベントの企画・実施に繋げるため、地域おこし協力隊を活用するもの。 地域おこし協力隊報償費支払：2人（令和元年4月分まで）	夏油高原および岩崎地区の人々と協力関係を築き上げて、11月23日オープン。各種メディアに取り上げられ順調なスタート。令和元年5月8日をもって任期を終えた。今後は個々で収益性の確保が課題。	完了
2	地域が輝くなりわい創出事業	遅れている	地域からの要望なし	受け入れ希望がなかったことから、実施せず。受け入れ希望が複数年なかったことから、地域がこの事業を求めている可能性を視野に入れる必要がある。	縮小
3	人口減少地域定住化促進事業	-	平成30年度で事業終了 参考：平成30年度実施事業は下記のとおり。 ○子育て応援宣言の里たちばな 実施主体：立花自治振興協議会 補助金額：404千円 ○くちないふるさとサポーター発掘事業 実施主体：口内町自治協議会 補助金額：2,625千円 ○いきいきいわさき定住化促進事業 実施主体：岩崎地区自治振興協議会 補助金額：1,309千円	定住人口の増加にはつながらなかったものの、情報発信による交流人口や特産品の売れ行きの増加、地域住民と地域内団体との連携、次世代リーダー育成などの効果があった。地域で解決が必要な課題が明らかになったものの解決が難しい。また、人口減少に伴い、地域の維持のために財源が今後必要となることが見込まれる。	完了

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

■各施策の進捗状況

施策2	人・モノ・情報が活発に行き交う交流・連携の促進
-----	-------------------------

計画の内容	重要業績評価指標	指標の説明	単位	基準値						実績値			目標値	達成状況
				H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02				
北上市の美しい自然や田園景観、伝統芸能、郷土料理、特産品などの地域資源が持つ魅力を有機的に活用し、都市と農村交流、ものづくり観光、スポーツ観光などと結びつけながら、「北上市を訪れてみたい」人々を増やす取組みを推進するほか、観光産業各団体の連携を図り、まち全体が一体となり来訪者を迎える環境づくりに努める。また、住民の暮らしを支える情報発信やシティプロモーションの観点から、地域の魅力を知ることによるシビックプライドを醸成する。	年間観光客数	各施設、祭り等の入込調査による集計	千人	1,394	1,400	1,521	1,510	1,293	1,806	1,960 【H32】	C			
	産業観光客数	見学受入れ企業の入込調査による集計	千人	35	27	22	26	20	15	37	D			

現状・課題等
<p>○食・遊び・自然など、観光に関するあらゆる情報を集約・分析した戦略的な観光施策が実施されていないことから、これらを集約し、多様化する観光客ニーズに対応した施策を展開するための体制を整備する必要がある。</p> <p>○展勝地周辺の観光資源の活用・整備が進んでいる。</p> <p>○夏油高原スキー場について、令和5年6月30日が運営事業者との契約終了期限となっている。</p>

今後の方向性
<p>○行政、関係団体、事業者等の役割を整理し、有識者の助言・指導も受けながら、今ある観光スポットを利用した誘客方法の工夫や、新たな観光テーマ、話題づくりの方法を研究・共有・実践していく体制を整備する。</p> <p>○地域の魅力発信プロジェクトとの連携や地域おこし協力隊のネットワークを活用した地域特産品の知名度向上を図るとともに、近隣市町及び弘前市、仙北市との連携による国内、国外向けプロモーション活動を実施する。また、展勝地開園100周年への機運醸成に併せ、地域や関係団体との連携による民俗村の活用と国見山廃寺との連携を強化する。</p> <p>○夏油高原スキー場と温泉郷組合を中心として地域とも一体となった夏油高原地域の活性化を図る。</p>

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

■施策に紐づく事業の取り組み内容(予算が伴う事務事業を抜粋)

◆多様な主体が連携したおもてなし環境の整備◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 [計画期間内での新規事業は計画概要]	達成状況の分析・問題点・課題等	今後の方向性
1	ハローワールド訪日外国人等受入事業	-	平成30年度で事業完了	東南アジア圏をターゲットに、主にタイ、マレーシア人の傾向、価値観、流行等についてセミナーを行い、受け入れ態勢の構築を図る一助とした。インバウンド受け入れセミナーが多数開催されているが、実施面での対策が不十分である	完了
2	公共施設公衆無線LAN整備事業	概ね順調	Wi-Fi設備の管理 ・4カ所 (展勝地駐車場2カ所、展勝地レストハウス、北上総合運動公園(おでんせ1階は解約))	wi-fi設備を設置した展勝地、おでんせ、総合運動公園において、適正にwi-fi環境を提供できている。まつり等イベントが開催されない時期の利用が少ない。	完了
3	多文化共生事業費補助金	概ね順調	北上市の国際化のため、多言語表記や無料公衆無線LAN等の整備を行う民間事業所に対して補助金を交付するもの。 申請件数1件、交付額23,000円。 令和2年度で事業完了	地域において、多文化理解を深める、ソフト事業に活用されている。新しい地域や事業者からの申請が少ない。	完了
◆地域資源の再発掘・新たな付加価値の創出による交流人口の拡大◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 [計画期間内での新規事業は計画概要]	達成状況の分析・問題点・課題等	今後の方向性
4	きたかみ観光まちづくり再生事業	順調	地域おこし協力隊を採用し、協力隊と北上観光コンベンション協会、市が連携し、「北上市観光まちづくりプロジェクト」を協働で実施するもの。 地域おこし協力隊報償費支払：2人	独自の視点と強みを有する協力隊の活動により、新たな観光の取り組みとなっている。1名は4月20日、1名は7月31日で任期を終了し本事業は完了。	完了
5	国見山廃寺観光ブランド創出事業	-	展勝地・国見山の豊かな自然や平泉文化に先立つ平安中期に巨大な寺院があったことなど魅力的な歴史・文化の資源が十分に活かされていないことから、これらの資源を有機的に活用して観光振興や地域振興を図るため、伝承の中に残るだけの巨大寺院国見山廃寺に光を注ぎ、展勝地・国見山文化遺産の活用を図るもの。 *28年度で事業終了	他イベントと合わせ事業を実施したことにより、国見山の文化・遺産のPRとしては効果的であった。事業内容からは、単年度事業であるが、成果品の活用については検討の余地がある。	完了
6	産業観光振興事業	概ね順調	工業集積の特性を活かして、最先端技術を備えた工場の見学や体験などの産業観光を推進し、工業見学者に対して当市の観光物産をPRする。工場見学者受け入れ工場に観光パネル・パンフレットを設置して観光、物産をPRする。ガイドブックの作成。 産業観光パンフレット作成：1,000部	工業都市である特徴を生かし、観光や教育の分野での役割が大きい。受入企業の収益性貢献がなく、新規協力企業の開拓に苦慮。申込窓口がなくツアーパッケージに育たない。	継続

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

◆芸術文化、スポーツを通じた北上市の魅力体感◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 【計画期間内での新規事業は計画概要】	達成状況の分析・問題点・課題 等	今後の 方向性
7	スポーツコミッション推進事業	順調	官民一体となって、スポーツを観光資源としたツーリズムを推進して地域活性化に取り組む組織を設立し、各種大会や合宿誘致とスポーツイベントの創出をすることにより、スポーツ振興とスポーツを核とした交流人口の拡大につなげ地域活性化を図るもの。 ・合宿誘致団体 10団体 ・アウトドアコース活用イベント 5 イベント実施 ・R2年度北上観光コンベンション協会との統合に向けた組織体制の見直し（R2年度より統合実施）	合宿誘致件数が順調に伸びてきており、スポーツでの交流人口拡大につながっている。地域資源を活用したイベントも増加している。令和2年度から実施する北上観光コンベンション協会との統合に向けた準備を行う。	継続
8	ラグビーW杯・東京五輪事前合宿等誘致事業	順調	ラグビーワールドカップ2019 ウルグアイ代表チーム公認チームキャンプを受け入れた。事故やトラブルなく順調に実施されウルグアイチームの初戦勝利につながった。 東京2020オリンピックに出場予定であるセルビア共和国陸上競技選手の事前キャンプと、選手がオリンピック前に東京で開催される国際大会に出場する際には北上市へ訪問することが決定した。	大学生等の合宿やRWC2019、東京2020オリンピックでの事前キャンプは、非常勤職員として合宿誘致アドバイザー兼コーディネーターと連携しながら進めることで、誘致等の成功につながった。	完了
9	芸術文化活動合宿誘致事業	順調	平成30年度で事業完了	当初の予定通り、3年間（H28～H30）で事業終了。予想より、文化芸術で合宿を行う団体が少なかったこと、及び利用団体が毎年度一部に限られてしまった。	完了
10	グリーンツーリズム	遅れている	農村の自然と文化を活かしたグリーン・ツーリズムの活動を支援した。 ○きたかみグリーン・ツーリズム推進協議会が受入れた農業体験者数 278人 ○きたかみグリーン・ツーリズム推進協議会に登録している受入農家数 29軒	きたかみグリーン・ツーリズム推進協議会の活動を支援し、年2回の農業体験の受入れに協力した。今後のきたかみグリーン・ツーリズム推進協議会の方向性等を確認しながら、事務局のあり方について検討を進める必要がある。	継続
11	大学スポーツ合宿事業費補助金	順調	高い競技力を持つ大学生等が市内で合宿をすることにより、市民に高い競技力の観戦機会を提供し、市民のスポーツ水準の向上とともに、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図ることを目的として大学生等のスポーツ合宿誘致を促進するため、市内で合宿した場合の経費に対し補助金を交付するもの。 10団体 誘致 500千円×8、450千円×1、400千円×1	国体で整備した高規格スポーツ施設を活用出来ている。スポーツリンク北上との連携した誘致活動により、スポーツによる交流人口が拡大し、市内産業にも経済効果がでている。北上市単体での誘致だけでなく、岩手県と他市町村との連携した誘致の実施が必要である。連携して同じ種目の複数チームを誘致することによって練習試合環境の創出などが可能となり、チームの満足度の向上と代表クラスの合宿の誘致につなげ、北上市の競技力向上や北上市のPRを目指す。	拡充
12	ラグビーワールドカップ2019公認キャンプ地推進事業・施設整備事業	順調	地域交流計画事業の実施 ・ウルグアイチームキャンプ受け入れ（9/14～23日） ・チームウエルカムセレモニー ・小中学生交流事業 小中学生269人参加 ・歓迎シティドレッシング 6/12～11/3まで実施 ・パブリックビューイングの実施 5試合 1,210人観戦 ・Nz高校生交流事業の実施 Nz高校生20名 市内高校生100名参加 公認チームキャンプ地としての施設整備事業 ・芝生整備業務委託 5,774,500円 ・セキュリティフェンス等の仮設設備の設置 5,226,688円 ・チームルーム備品設置 9,251,460円 ・撮影代の購入 599,400円 ・トレーニング機器負担金 10,417,000円	各種イベントの実施により、RWC2019開催機運醸成が出来た。 また、公認チームキャンプ地として受け入れるための施設整備を行ったことで、高規格化が図られ、合宿誘致等につながった。	完了
◆あじさい型地域情報システムの構築◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 【計画期間内での新規事業は計画概要】	達成状況の分析・問題点・課題 等	今後の 方向性
13	地域情報システム整備事業	順調	○中継局追加整備に向けた電波伝搬調査及び設計業務（平成30年度からの繰越）○口内中継局土地借上料支払 ○男山送信所及び臥牛中継局の整備業務（令和2年度の繰越）	難聴地域を解消するため、男山送信所及び臥牛中継局の整備にかかり、電波伝搬調査及び放送施設設置に係る設計を行った。 当該施設の整備工事は、機器の納入遅れに伴う工事延長により、令和2年度へ予算を繰越した。	継続

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

■各施策の進捗状況

施策3	女性や若者を中心としたU・Iターンの促進
-----	----------------------

計画の内容	重要業績評価指標	指標の説明	単位	実績値						目標値	達成状況
				H26	H27	H28	H29	H30	H31		
本市の特徴として進学期・就職期の転出が顕著であり、特に女性の転出が近年著しい。人口減少への対策として、女性や若者の確保は急務であることから、県内・外からの女性U・Iターンの促進や県内大学等関係機関との連携を強化し、若者人材の地域定着を促すとともに、今後ますます需要が高まる医療、介護、保育人材の確保に向け、市外（県内、仙台都市圏、首都圏等）からの移住・定住プロモーションを展開する。	女性の就業者数	生産年齢人口に占める女性の就業者数【国勢調査】	人	17,453 (H22)	18,104 (H27)	18,104 (H27)	18,104 (H27)	18,104 (H27)	18,104 (H27)	18,590 (H32)	B
	市内企業インターンシップ受入人数	インターンシップ強化事業による市内企業受入人数(産業雇用支援課把握分)	人	-	H28 開始	23	19	77	22	400	D
	北上市無料職業紹介マッチング数	実数把握	件	1	0	0	0	0	0	10	D

現状・課題等
<p>○北上公共職業安定所管内の新規高卒者の管内就職率は50.3%であり、人手不足の解消には、地元就職率のさらなる改善が必要なほか、他地域への働きかけが必要となっている。</p> <p>○全国的にも人口減少が見込まれる中、労働力不足が今後の企業進出などの地域経済成長の制約とならないよう、労働力の確保が必要である。</p>

今後の方向性
<p>○他地域の新卒者（特に県外志向者）への情報提供を強化する。</p> <p>○若年者の職場定着を図るため、企業の人材育成を支援する。</p> <p>○インターンシップの実施支援や企業見学会の開催などにより新規学卒者の市内就職を高めるほか、就職相談会等により、労働意欲がある者と企業とのマッチングを図る。</p>

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

■施策に紐づく事業の取り組み内容(予算が伴う事務事業を抜粋)

◆女性人材等地域産業の担い手の確保◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 [計画期間内での新規事業は計画概要]	達成状況の分析・問題点・課題等	今後の方向性
1	大学生等インターンシップ強化事業	遅れている	①人材確保コーディネーター1名 ②諏訪町商店街、夏油高原での地域志向型インターンシップの実施支援 ③インターンシップに係る交通費等の補助 利用人数22人、支給総額248,120円	課題解決型のインターンシッププログラムを2件作成し、学生の受入れを行った。インターンシップは就業体験を通じ企業や産業の理解を促進し、職業間の形成に資するものであるが、最近の売り手市場を背景に実質採用活動に位置づけるケースも出てきている。	継続
2	女性UIターン定住促進事業	概ね順調	首都圏からの女性UIターンの促進と企業の人材確保を支援するため当市への移転が必要な新規女性雇用者(正社員)に対して住居費の一部補助。 ・岩手県UIターンフェアへの出展:2回 ・採用試験交通費助成 2件 ・引っ越し費用助成 2件	岩手県UIターンフェアで北上市のブースに来場した方が市内企業に興味を持ち、後日採用面接を受けたが移住にはつながらなかった。引き続き、市内企業のPRや補助制度について情報発信を行っていく。	縮小
3	地元就業支援奨学金返還減免事業	概ね順調	市奨学金制度を利用した者が卒業後、地元就職、市内定住した場合、申請により奨学金返還額を半額に減免する。 減免実績2人 減免額150千円	減免制度適用の条件に達するまで、返還を猶予することができ、該当者が新規返還対象者22人に対し5人となっている。地元就業支援に向け、新規貸与者と就職を検討する貸与中の奨学生に対し、引き続き、効果的に周知する必要がある。	継続
4	北上市中小企業のためのUIターン定住促進事業補助金	遅れている	労働力確保を目的に、県外からの面接費用(旅費)と引っ越し費用の一部を助成し、UIターンを促進するもの。 ①採用試験交通費助成:3件 ②引っ越し費用助成:1件	利用者はあったものの、計画人数(交通費55件、引っ越し12件)には到達しなかった。県外にいる移住希望者への効果的な情報発信課題となっている。	継続
5	就業・起業支援によるUIターン促進事業 (岩手県及び県内自治体による連携事業)	遅れている	東京圏から移住して就業又は起業しようとする方が転居・就業又は起業・定着に至った場合、岩手県と居住地の市町村が協働し移住支援金を支給する。	電話での問い合わせはあるものの、要件に合致する方が少ない。登録のある事業所に就職することが要件の一つとなっているため、登録事業所が増えるよう引き続き周知を行う。	継続
◆医療・介護・保育人材の確保◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 [計画期間内での新規事業は計画概要]	達成状況の分析・問題点・課題等	今後の方向性
6	保育士確保プロジェクト	概ね順調	保育士の恒常的な確保に向け、現在、保育現場から遠ざかっている有資格者の現場復帰をサポートしていくとともに、県内学生向けに本市の保育事情の紹介や保育現場の見学会を実施するもの。	県内保育士等養成校と連携し、きたかみ保育TOURを開催した。45名の参加があり、数名が北上市内の保育施設に就職した。 近隣自治体でも同様の事業を実施するようになったため、差別化を図る必要がある。 保育士等の不足の解消には至っていない。	継続
7	介護人材確保推進事業補助金	順調	介護を必要とする高齢者が今後も増加することが予測される一方で介護人材の不足が課題となっており、介護人材を安定的に確保するため、奨学金を借りて介護福祉士養成施設を卒業し、北上市内の事業所に就職した者に対し返済の一部について補助金を交付するもの。 対象者3名 補助金額390,600円	市内の全事業所に照会し対象者を把握した。R1年度は3名の利用があった。補助金の活用が図られ、介護人材不足解消の一助となっている。	継続
8	介護人材養成事業補助金	順調	介護人材を安定確保するため、介護福祉士養成施設入学者の学費等一部を補助するもの。 対象者25名 補助金額11,320,000円	市内の介護人材養成校に入学し、市内の介護施設への就職を希望している23名に対して学費等の一部を補助した。	継続

北上市版総合戦略検証シート[令和元年度]

■各施策の進捗状況

施策4	シビックプライドの醸成と都市ブランドの確立
-----	-----------------------

計画の内容	重要業績評価指標	指標の説明	単位	実績値						目標値	達成状況	
				H26	H27	H28	H29	H30	H31			
北上固有の資源等を再確認し、その魅力を市内・外へ効果的に伝え、北上に「住んでいる人」、「住みたい人」、「訪れる人」が北上への愛着や誇りといった帰属意識を強く持ち、自ら地域の魅力の創造や発信の活性化を促し、北上の認知度やイメージの向上に繋げ、都市のブランドを確立する。	これから北上市に住み続けたいと思う人の割合	市民意識調査【2年に一度】	%	90.9	90.9 [H26]	85.3	85.3 [H28]	88.1	88.1 [H30]	88.1 [H30]	90%以上	C

現状・課題等
○地域資源を掘り起し、魅力を育て、心に残る情報発信で伝えることにより、シビックプライド（地域への愛着と誇り）を醸成し、都市ブランドを確立していくことが必要となっている。

今後の方向性
○都市ブランド推進行動計画に沿って、統一感を持った情報発信を推進し、内外からの良好なまちのイメージ確立とシビックプライド醸成に繋げる。広報紙やホームページ、フェイスブック等各種広報媒体により北上市を知ってもらい、関心を持ってもらえる情報を発信する。市民一人ひとりが、それぞれのライフスタイル（働き方・暮らし方・いきがい）を自立的にデザインし、発信する動きを数多く紹介し、さらなる未来の暮らし方デザインに繋がる動きを活性化させる。

■施策に紐づく事業の取り組み内容(予算が伴う事務事業を抜粋)

◆シティプロモーションの推進◆					
#	主要事務事業	目標達成状況	R01年度事業実績 [計画期間内での新規事業は計画概要]	達成状況の分析・問題点・課題等	今後の方向性
1	シティプロモーション推進事業	概ね順調	外部プロモーション（都市のブランディング基盤整備、各施策におけるシビックプライド醸成事業の推進） 内部プロモーション（外部プロモーションを支える、職員スキルアップ、組織体制整備、マニュアル策定等） ○ロゴマーク使用許可5件（外部） ○ブランドブック作成 3,500部○ブランドサイト運営○職員名刺作成、配布 ○クリアファイル追加作成・配布 ○ピンバッジ配布 ○庁内会議資料チェック175件 ○資料作成研修1回 ○チラシ評価と各課等へのフィードバック○フォトコンテスト実施（年4回）	ブランドサイトやInstagramにより、市の魅力発信を行った。ブランドブックを作成し、市民のライフスタイルを発信した。各種資料やチラシ等作成に係る研修や指導等を行った。2021年周年事業に向けて事業を取り纏め、推進した。課題としては、ブランドサイトの認知度が低い。また、市の魅力発信が市民等へ十分には届いていない。各種情報発信方法に検討が必要。	継続
2	姉妹都市・友好都市交流事業	順調	姉妹都市・友好都市委員会の開催、姉妹都市及び友好都市等の情報交換、交流事業の実施。姉妹都市・友好都市の交流促進を図るため姉妹都市・友好都市委員会を開催し、情報交換及び交流事業の実施について協議検討。 ・姉妹都市・友好都市委員会 開催1回	都市間で毎年順調に交流を重ねており、民間、行政それぞれの相互の友好関係の構築に寄与している。周年事業を翌年に控え、民間レベルの一層活発な交流を盛り上げるための仕組みが不足している。	継続
3	2021年周年事業（広報・プロモーション事業） （令和2年度新規事業）	順調	○2021年周年事業推進会議の運営、全体事業調整（推進会議3回、事務局会議1回） ○周年記念ロゴマーク決定（市民人気投票、投票総数2,841票）○周年記念事業基本計画策定（令和2年度当初事業一覧掲載数55事業）○各種事業協議（展勝地記念事業実行委員会、マージングバンド招致事業等）	キャッチコピー「キタカミトリアノバーサリー2021」を定め、市民による人気投票により、ロゴマークを策定した。 2021年に重なる各種周年事業について、「市民の愛着や誇りの醸成」「市外への北上市の認知度向上」の機会と捉え、一体的に推進することとした。 また、推進会議においては、基本計画を策定し、令和2年度の事業実施準備を行った。	継続